

2019総会の様子



一年後 四谷で会いましょう

今年度は関東支部同窓の集いを中止します

見えない敵に打ち勝とう

同窓の皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。日頃は村上高校同窓会関東支部の活動にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本年は昨年の天皇陛下御譲位に伴い年号も変わり、本格的な「令和」の新时代を期待しておりましたが、二月以降中国武漢で発生した新型コロナウイルスが瞬く間に日本に上陸し、今や世界各地に蔓延して大変な事態となって日本はじめ各国が未曾有の危機に瀕しております。

その様な中、六月二十七日に予定しておりました関東支部「同窓の集い」を開催するかどうか検討して参りましたが、現下の情勢をみて六月に終息する見通しも立たず「同窓の集い」を中止することに決定致しました。年一回の恒例の「同窓の集い」を楽しみにされていた会員の皆様に誠に申し訳なく思っております。そして昨年来、同窓の集いのため準備運営をしてこられた幹事・役員の皆様のご苦勞に感謝申し上げます。会員の皆様におかれましてはくれぐれもお体を大切に、来年の「同窓の集い」にご参加くださることを期待しております。

村上高校同窓会関東支部 会長 山本宏平（一七回）



新潟県立村上高等学校同窓会関東支部

2020. 5. 10 第31号

発行人 山本 宏平  
編集 木村 春夫  
事務局 櫻井 繁雄  
神奈川県川崎市多摩区  
宿河原1-22-35-308  
TEL 044 (933) 1033  
ホームページ <http://www.murakou.com/~kanto/index.htm>

本年度の同窓の集いは

中止 します

新型コロナウイルスの影響により、本年度の同窓の集いは中止となりました。一年後、皆様と元氣にお会いできます事を楽しみにしています。

お知らせ  
村上市に地震お見舞い

令和元年六月十八日に発生しました山形県沖地震により故郷山北地域が甚大な被害を受けたことに対し、村上高等学校同窓会関東支部として、村上市に見舞金五万円を贈呈いたしました。

副会長をお引き受けて

大塚寿子（29回）



新しく副会長として同窓会関東支部の役員仲間入りさせていただきました。精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

私自身、当番幹事といわれる年に初めて参加して以来、同窓会活動の経験はまだ浅いのですが、先輩の皆様方の暖かいご指導を頂きながら今日に至っております。

これまでに同窓の集いやいくつかの活動に参加して、数十年忘れていた母校への思いが再び湧き出て参りました。それは、総会に出席される同窓の皆様を母校を思う心や、郷土村上を思う熱い心に啓発されたのです。皆様と気持ちを同じくして一つのことを成していく過程の中で学ぶことも多くあります。今後の活動としては、新卒の方々等若い年代の方々には是非同窓会に参加して、暖かい心の交流を実感して頂けるよう、お声かけなどいろいろしていきたいと思っております。

関東支部には総会の他にも、歴史散策やゴルフ等、自由に参加できる場もあります。先輩・後輩の分け隔てなく語り合えますし、思いがけない出会いがあったりします。

是非同窓会にご参加ください。一緒に楽しみましょう。（相模原市在住）

# 村上愛

## (当番幹事を終えて)

森山敦子 (32回)



鼻先にふわっと懐かしい香りが漂った気がした。炊きたてのコシヒカリと塩引鮭。これがまた最高にうんめんがねえ。

昨年末、私と同じく村上と塩引鮭をこよなく愛し、その心を誠に美しく物語に仕立ててある一冊の本と出会った。浅田次郎氏の『大名倒産』である。

「水はよし、米はよし、魚もうまい」遙かに広がる稲穂の波「噂に聞く越後美人」これらはほんの一部。鳥肌がたつ位ほれ惚れたのは「こんもりと綿帽子を冠った城山は臥牛には見えず、白無垢を着た花嫁のごとく清楚でうるわしい」という一文。白鳥の羽根でくすぐられたら、こんな気持ちになるのだろうか。村上が誉められている。浅田氏は、村上の春夏秋冬を見て心から惚れ込んでくれたのであろう。私の心の中にも様々な村上でのシーンが浮かび上がってくる。



元号が令和に変わった五月二日。その日の夕刻、私は村上を発つ。北風に背を押されながら、山辺里まで墓参り。前の日、雅子皇太后様を祝ったおしやぎりの名残りが、町のそこら中にまだあった。

三面川の土手から望む下渡山の新緑がまぶしかった。お城山よりちょっと

だけ気難しいその山も、春の陽気に誘われて表情が優しく見える。翡翠色の絵の具をチューブからそのまま出したような穏やかな三面川。秋になれば鼻筋の通ったイヨボヤが我先にと上って来る母なる川は、草花の芽吹きを見守っている。

川遊びをした思い出のこの川は、深い群青色だった。苔に覆われた川底の石のぬるぬるさに負けじと足を踏んばった。流れが行き着く日本海の荒波も、越後平野に吹きすさぶ雨雪も、勿論村上高校に学んだことも、私の人生の基盤を支え、創り上げてくれていたのだ。

## 村上高校同窓会関東支部 平成三〇年度会計報告

総会で承認をいただきました。

30年度 支出の部	
総会費	902,975円
印刷費	166,010円
通信費	229,443円
維持会費払 hands 手数料	29,430円
旅費及び慶弔費	150,000円
会議費	143,952円
運営費	36,734円
次年度繰越金	1,266,112円
合計	2,924,656円

30年度 収入の部	
総会会費・お祝い金	851,000円
119名	
特別参加費	28,000円
本部助成金	50,000円
維持会費	
351名	804,000円
雑収入	6円
広告代	36,000円
前年度繰越金	1,155,650円
合計	2,924,656円

五月というのに、冷たい風が私の足首をつかんでいた。イヨボヤが産まれた川に帰るのように、私も本当はこの地に留まりたいのかもしれない。でも背筋をぐっと伸ばす。腹に力を込める。つかまれていた足をぎゅっと引き抜き、前に歩み出す。あの日、村上高校三十二回生の皆と、肩を並べて校門をくぐった日のように。(板橋区在住)

## 同窓会にさそわれて

川上幸男 (21回)



同窓会に初めて出席したのは、昭和五五年五月で会場は半蔵門の東條会館であった。社に出で八年目の頃で同窓会には余り関心がなかったが、旧制村上中学の卒業生である叔父に誘われて出席した。会の様子などは覚えていないが古い名刺ホルダーにそのとき衆議院議員の稲葉修先生からいただいた名刺が保存されている。以来二八年間同窓会には出席したことがなかったが、平成二〇年に二八年ぶりに出席し、昨年まで二二回出席している。

きっかけは、前年の夏頃に当時副会長で同期の中村修平さんに平成二〇年の同窓会は二一回生が当番幹事の年で実行委員会に参加するよう誘われたことだった。ちょうど三〇年余り勤めた会社から子会社に転籍して四年ほどたち、懸案事項も片付き、比較的余裕のある頃だった。そこで同窓会の集まりに顔を出

してもいいかなと思いついて参加を承知した。

総会までに一〇回位会合を重ねて準備をすすめ、六月の同窓会当日を迎えた。平成一九年一〇月には二七名の参加で二一回生の同期会も開催された。

平成二一年一〇月に開催された本校体育館での同窓会、瀬波温泉大観荘での懇親会にも二一回生が当番幹事という事で関東支部の同期の人たちとともに出席した。懇親会散会后ホテルの玄関で帰宅する諸先輩の案内をしてもらううちに二一回生の記念写真に入りそこねたのは残念な思い出だ。

平成二三年に親会社の方針で、勤めていた会社の本社を東京から仙台市に移転することになった。九年ぶり一回目の転勤・引越であり、結局これが最後となった。

同窓会には、本来は住んでいる地域の支部に参加すべきものであるが、これまでの縁を大事にしたいと思って引き続き関東支部の総会に出席することにした。平成二四年からは毎年仙台から上京して出席しており、昨年で八回目となった。これからも出来るだけ出席したいと思っている。(仙台市在住)



あの日  
あのころ  
いまじぶん

## 終戦前後の体験

富樫利男 (旧中40回)

去る昭和二十年、

日本は史上初めて大戦に敗れ、無条件降伏をしました。この前後の約三年にわたる私の体験は非常に厳しいものでしたが、今では自分に大切なものになりましたので若い同窓の皆さんのご参考に供したいと思えます。



旧制の村中の四年終了後、陸士の入試に合格して昭和十七年四月に陸軍予科士官学校に入学。昭和二十年三月に陸軍航空士官学校を卒業、直ちに北朝鮮に赴任しました。

その頃、日本の状況は米軍の沖縄への上陸が行われ、戦況の挽回には空軍の特攻の手段しかなく、私等はその為の訓練を受けていたのです。七月一日には陸軍少尉に任官しましたが、八月十五日には終戦の玉音放送を北朝鮮の飛行場で聴きました。

同じ陸士同期生でも陸軍と航空とは玉音放送への反応は可成り異なりしました。航空は飛行機を使い大洋上で戦うので、日本精神は重要ですがそれだけでは勝てません。私は玉音放送を聞いて、昔の言葉で「日本は刀折れ、矢尽きての敗戦だ」と思いました。

終戦後は、連合国側の決定により我々は旧ソ連側に武装解除を行うが、その後は日本に帰国させると約束があったのです。然し、旧ソ連側はその約束を破り、私等全員を欺いて帰国用の船に上船させてウラジオストクの近くの港に上陸し、そのまま抑留を強行し

ました。

ロシアは戦勝国ですが、国内が戦争によって極度に疲弊していたため、その復興のために日本人抑留者の大半が、シベリヤ地区で肉体労働を強制されたのです。

国際法により将校の強制労働は禁じられていた事から、将校用の収容所は原則として、ウラル山脈を超えたヨーロッパロシア内にありました。私等に充てられたのは、少尉から大佐用のエラプカ収容所で、収容人員は約八千名で最大でした。この収容所でも実際は一部の労働は強制されたのです。

若い少尉や中尉は、連日の過酷な労働を受け持ち、衣食住の条件は非常に悪かったので、常時空腹状態であり、抑留生活は苦しいものでした。旧ソ連側は「君たちの労働は君達自身の生活を維持するための労働だから強制労働ではない」と言っていました。

大戦では、極めて多数の軍人が戦死しました。私等陸士五十八期生の同期生に相当するのが、海軍では海兵七十三期生です。彼等は海軍の損耗が極めて激しい為、学業が大幅に短縮され、陸軍の私等より約一年早く卒業して実



陸軍航空士官学校 卒業写真  
昭和二十年三月

戦に参加したので、戦死者はその一年間で全員の三分の一に達したのです。このような生と死の境は、将に天運としか言えないものでした。

旧ソ連から復員後は、幸運にも大学にも進学でき、戦争とは無縁の平和な時代に民間人として生きてきました。

平和な時代にも各種の人間社会の苦勞は付きもので、苦あれば楽あり、楽あれば苦ありです。九十四歳になった現在も概ね元気で会社の他にも微力ながら社会の為の仕事もしてきました。上記の終戦時の体験は、平和な時代の私の苦しい局面でしばしば現れ、良薬になつてくれたと思えます。(板橋区在住)

### 新たな挑戦

#### 人生完全燃焼！

中村修平 (21回)



編集長からこのようなタイトルで依頼を受けた。気安く引き受けてはみたものの、正直、胸を張って書けることはない。

私が昨年三月に、鍼灸師の国家資格を取ったことを取り上げてくれたのだが、今、臨床の現場に立って、まだまだ知識不足と技術の未熟さを思い知ら

されている。専門学校を終了するとき校長が卒業生に向かい「皆さんはこれから生涯勉強です。たゆみない努力を怠らないで下さい」と話された。その意味が、卒業して実際に患者さんと対面し、施術をさせていただく中で、実

感としてわかってきた。

四ツ谷にあった専門学校に六五歳で入学した。一日に午前二コマの授業を週に五日。傍目には楽そう見えるだろうが、片道一時間半、休まず通うので精一杯という感じだった。テストが多く、気が抜けない日が多かった。三回の定期試験のほか、実技試験が別にあった。色んな事情で留年、退学して脱落する人もけっこういた。

まず、西洋医学系の勉強。解剖学、生理学、衛生学、臨床医学など。東洋医学系も学ぶ内容が多く、独特の世界観で難しかった。加えて、ツボを覚えるのが一苦勞。理屈抜きの丸暗記を求められた。その数は四〇〇個くらい。ツボの名前は難しい漢字が多く、それにも苦しんだ。実技の時間は緊張の連続。若い一〇代、二〇代は覚えるのが早い。悔しいけれど力の差を見せつけられた。練習の機会は限られており、全く不十分なままで卒業となった。

クラスの平均年齢は三五歳前後ではないかと思う。中でも、私が飛びぬけての高齢。年齢層が広がっているのが特徴だった。鍼灸の専門学校は、言ってみれば、国家試験のための予備校だと思う。

資格要件は、三年間授業を受け単位を取って卒業することと、国家試験にパスすることである。学校のカリキュラムはそこに焦点を絞ったものだった。

なぜこの年にもなつてと思う方もあ

## 私の歩んできた道

音楽と共に

大滝秀則(32回)

「人生不完全燃焼」となる。今まで、自分なりに懸命にやってきたという気持ちがあったが、全身を打ち込んで続けたという手ごたえが、今一つ持てなかった。まだ、自分にできることがあるに違いないと考えるようになった。六〇歳を過ぎて、持病の回復が思わしくなく、大学病院に通うのをやめたころ、ふと、東洋医学を学んでみたいと思うことがあった。自分の身体を見つめなおす必要を感じた。今までは、病を受け身でしかみていなかった。病は医者が治すものと考え、自分で考え、体を変えていくという努力をしてこなかった。



再任用最後の年の夏、鍼灸の学校で学ぶ決断をした。これからの学びが自分をさらに健康にし、周りの人の役に立てるかもしれないと考えた。

試験は九月だった。家族がこの決断を理解し、受け入れてくれたことには大いに感謝したい。

三月三十一日まで仕事をし、四月一日が入学式だった。学校にいたときはテスト続きの授業で忙しく、毎日がとても大変だった。

けれども、今施術所で患者さんと関わるの方がもっと厳しいのだということがわかってきた。

私の本当の挑戦は実は、これからののである。(八王子市在住)

村上の庄内町出身の私は村上小学校時代から野球とバンドに熱中し、村上第一中学では野球部で県大会ベスト四まで進みました。



村高進学後は野球部中心の毎日でしたが、思っていた様な結果の出ない一年生の冬に、練習の合間にこっそり応募した旺文社主催「全国高校生作曲コンクール」から入賞の知らせが届きました。これを機に私の高校生活は野球から音楽へとシフトしました。

二年生になり歌もギターも上手い同級生の小池道昭氏を誘い、バンドを結成。一緒にオリジナル曲を作り録音して、コンテスト等への挑戦を続けました。彼からは多大な影響を受け、学校でもプライベートでも、いつも一緒に時間を過ごした事を昨日の事のように覚えています。県民会館大ホールでの演奏や、NHK新潟局での生演奏等、精力的に活動しました。

卒業後はバンドでのデビューを目指し、日本大学芸術学部音楽学科作曲コースへの進学を機に上京しました。大学でのバンド活動で良いメンバーに出会えず悩んでいた私は、千葉大に進学した小池氏をまた一緒にやりたいと

誘い、東京での本格的なバンド活動をスタートさせます。それからの一年半は今思い返しても、濃密な時間でした。多数のコンテストでの入賞が続き最後に「第一回NHKアマチュアバンドコンテスト」で小池氏作詞作曲の曲で「全国大会グランプリを受賞。その勢いで所属事務所も決まり、デビューへ向けてのレコーディングへ入ったのですが若気の至りでしようか、バンドは方向性の違い等で解散となり、幻のデビューとなりました。

そんな時に現在の私の仕事である「スタジオミュージシャン」としての仕事を紹介されます。これは録音スタジオやステージで、初見の譜面ですぐに歌や演奏をする裏方的な仕事です。これまでの仕事としては、CMソングの歌唱やディズニースングの日本語吹き替え歌唱、アニメシンガー、NHK紅白歌合戦でのコーラス、和田アキ子さん、五木ひろしさん、村下孝蔵さん等のコンサートツアーでのコーラスを手掛けてきました。



他にロックバンド「ANNYABAND」でのライブ、弾き語りでのライブ、ギタリストやピアニストとしての演奏、そして作編曲家としても活動中です。最近では故郷の村上でも毎月二回コーラスグループの指導や個人レ

ッスンに通っています。あつという間に音楽家としての活動も三〇年が過ぎましたが、駆け足でこれまでの私の高校生活と音楽人生を綴ってみました。最後に、現在の私の趣味は草野球で、毎週数回参加しています。(練馬区在住)

## 観仏三昧

佐藤裕治(22回)

新潟出身の歌人会津八一の『自註鹿鳴集』に「観仏三昧・仏像の研究と鑑賞に専心すること」とある。



私も八一の歌集を懐に、これまで各地の仏像を観て歩くのを楽しみとしてきた。国宝に指定された彫刻は一三八件あり、三十三間堂の千一体の千手観音立像も一件で登録されており、仏像の数では千五百体を超えらると思われ。常時公開されていないものも多く、中には東寺御影堂の弘法大師坐像のように、毎朝六時に御大師さまに朝食を捧げる「生身供」で拝観できるが、真っ暗でそのお姿を目にすることができないものもあり、これも一応観たことにすれば、これまでに国宝の仏像のほとんどを観ることができた。

仏像を観てまわるきっかけは、十数年前、東京国立博物館での「仏像、一本にこめられた祈り」という一木造りの仏像展で、八十歳代と思われる婦人に声をかけられたことであった。「今回の仏像展にはウロのある仏像が三体

あるのだけれど、一つだけどこがウロかわからないので、あなたそれで見て教えて下さらない。」

仏像はインドではほとんど石に刻まれ、中国や朝鮮半島では金銅仏も多いが、日本に伝わり木そのものに対する信仰と結び付き、木彫仏が主流となった。雷が落ちた木は霹靂の木と称し、ウロ(空洞)があっても、そのまま仏像に利用されている例がある。私が単眼鏡をもっていたので、それでウロを見つけて欲しいとのことだった。

その観音立像の前に連れて行かれたが、結局ウロは分からずじまいだった。その後、老婦人としばらく話しをした。「私は仏像が好きで全国の重要文化財の仏像もほとんど観ました。：でも、五十年かかりました。」

重要文化財に指定された仏像は件数だけでも二千を超えている。その時に、私は「これから五十年は楽しめる」と思い、以来暇があれば、全国の仏像を観て歩くようになった。

上野不忍池の畔に、滋賀県の長浜市の仏像を一体だけ交替で展示する「びわ湖長浜KANNON HOUSE」がある。江戸は家康の側近天海の助言をもとに京都に做って作り上野の東叡山寛永寺は東の比叡山に、その麓の不忍池は琵琶湖に見立てたという説があるが琵琶湖畔にある長浜市が市の施設を不忍池の傍に置いたのはおもしろいと思った。

昨年、そこを訪れたときに長浜の仏像を一泊二日で見てもわるツアーのチ

ラシがおいてあり、早速申し込んだ。ツアーで最初に訪れた来現寺は無住の寺だが、地元の人たちが大切にしていた国重要文化財の聖観音立像があった。「この観音さまにはウロがありまして：」ガイドの学芸員が解説を始めたときに、あの仏像であることに気付いた。



観音像として怖いくらい威厳がある。ウロは底にあり、正面からは確認できないものであることを教えることもあった。

あの老婦人にもその場所を伝えることはできなかったが、因縁を感じる観仏の旅であった。(茅ヶ崎市在住) 追伸 この原稿を書いている時に、われらが二二回同期生の室井(旧姓今井)こずえさんの計報に接しました。同期会旅行での会津や山形の観仏にも同行していただいたこずえさんのご冥福をお祈りします。

同好会 歴史散策の会

第九回 芭蕉の足跡と 下町の名所を巡る

佐藤 勝 (14回)

一〇月二六日、気持ちの良い秋晴れのもと、早速近くの隅田川沿いにある芭蕉記念館



深川不動尊

次の見学地は深川江戸博物館となる。江戸の町並みを再現した博物館では、江戸庶民の生活ぶりが良く判る各お店や火の見櫓、長屋などがリアルに展示されていて興味深かった。「福佐屋」というお店で昼食。名物の深川あさり井を頂く。次の目的地の富岡八幡宮へ。ここは江戸時代から一番の八幡様として栄えたところ。

最後の見学地である深川不動尊の界限は江戸時代から大いに栄えた門前町であった。今も古き良き日本の姿が見られ多くの人で賑わっていた。(西東京市在住)

ゴルフ同好会

「臥牛会」コンペの報告

佐藤 勝 (14回)

第六四回となる「秋季コンペ」が九

月二六日木曜日に開催されました。

今回は小田洋雄新会長の提案もあり、参加費の値下げと故郷村上の物産を賞品にするなど新しい試みがなされました。会場は参加者の利便性が良い、千葉県野田市の紫カントリー倶楽部で二二名六組のスタートとなりました。風もなく温暖な好コンディションの中それぞれで先輩後輩が和気あいあいとプレーを楽しむことが出来ました。優勝者は前回に続き今回も初参加二七回生の松本春二さんでした(規定により準優勝)。打ち上げパーティーでは「緊張しての初参加でしたが同窓の皆様とプレーを大いに楽しむことが出来ました」との挨拶でした。 四月、九月二回開催のゴルフコンペです。今後とも多くの皆様の参加をお待ちしています。



紫カントリークラブ

- ・優 勝 稲垣常夫 (17回) NET六九
- ・準優勝 松本春二 (27回) NET六七
- ・三位 菅原 孝 (20回) NET七〇

## 二四回生同期会報告

高橋初雄 (24回)

昨年の四月一日(土曜日)二四回生同期会が開催されました。この同期会は、八年前、同窓会の当番幹事をきっかけに始まり、メンバー相互の親睦を図ることを主な目的として始まりました。同窓会の総会のイベント内容やお願い事などについて、年次幹事の山本(利)さんからの報告や連絡を頂くことが、恒例となっています。例年春に開催し、ときには、川越や浅草散策なども織り交ぜて楽しい会になっております。

さて、今回は高橋重実さんの発案で「東京大学に入門しよう」と云うことで、東京大学の入学式の翌日、平成三一年四月一三日に赤門前に集合。入学式の翌日とあって恐らく新入生のご父兄と思われる方々も多く見られ、我々メンバーもそのような顔つきで赤門から入門。参加者は、山本(利)、高橋(重)、土屋、村山、渡邊、広沢、仙、山本(青)、小生、案内役は卒業生である遠山さんにお預かりしました。趣のあるレング造りや大理石造りの学部校舎、安田講堂、小柴ホール(小柴昌俊特別荣誉教授のノーベル物理学賞受賞を記念して開設された)、三四郎池、など凡そ一時間半に亘り見学。静寂の中、これぞキャンパスといった素晴らしい建物と雰囲気、に圧倒されてしまいました。昼食は、本郷三丁目駅近くの中華料理店で、美味しい料理、各種ドリンク飲み放題と

いうことで、舌鼓をうち大満足。その後、有志でカラオケ店に移動、自慢の喉を披露し、最後に、舟木一夫の「高校三年生」を合唱、お開きとなりました。関東地区には、同期生(二四回生)が、凡そ六〇名程いらっしゃると聞いております。是非多くの方々が、同期会をはじめ同窓会に、ご参加して頂きたくご連絡をお待ちしております。

(四街道市在住)

《連絡先TEL》

高橋(初) 090(3037)0959

土屋 090(8586)2354



## 母校だより

村上高等学校 校長 関矢和彦

同窓会関東支部の皆様、その後お変わりなくお元気でお過ごしでしょうか。校長として、伝統校村上高等学校に四年間勤務させていただきました。三月末日で退職することになりました。この間、毎年同窓会関東支部総会に参加させていただき、皆様に大変お世話になりましたことに、心から感謝申し上げます。



さて、今原稿執筆中ですが、通常の三月であれば、卒業式、高校入試、終業式などの学校行事を粛々と進めている予定でした。ところが、この度の新

型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、卒業式は、卒業生、保護者及び学校教職員のみにて挙行いたしました。また、高校入試は予定どおり行ったものの、終業式や離任式、部活動なども自粛しなければならず、生徒にとって、大切な年度の締め行事などが行えず、心配をかけたことを心苦しく思うと同時に、私自身、緊急事態とはいえ、少し残念な気持ちもありました。

しかしながら、そこはさすが村上高校です。今春の進路実績では、国公立大学始め、難関私立大学へも複数名合格者が出るなど、生徒の進路実現へ向けた努力が着実に実りました。また、現在推進中の「村高イヨボヤプラン」プロジェクト(地域探究学習)でも、少しずつその成果が表れつつあり、同時に進んでいる県教育委員会による「明日の新潟の飛躍につながる魅力ある学校づくり」推進事業(三年間)の二年目が終了し、本校の「大学進学を重視した学究型の高校」づくりが、着実に定着してきていると考えております。

特に、本校教育目標を踏まえた望まれる人間像として、①自己肯定感・自己有用感がある人、②将来に希望を持ち、向上心を持ち続けられる人、③変化の激しい社会に、柔軟に対応できる人—を育成するため、全教職員がカリキュラム・マネジメントに基づいて授業改善を積極的に進めていることも、次代を担う村高生の育成に大きく影響しているように感じます。一方、グローバル化への対応として、高校二年次

の修学旅行先を海外に変更し三年目となり、昨年はシンガポール、今年はグアムで国際交流を進めてまいります。

令和二〇二〇年度は、記念すべき本校創立百二十周年にあたります。コロナウイルス対応など、混沌とした先の読めない時代ですが、村上高校の新たな飛躍へ向けて、よき伝統を守りながらも果敢なチャレンジを続けてまいります。同窓の皆様には、今後、共に未来へ向けて輝き続ける村高づくりに御協力いただきますようお願い申し上げます。

## 星和会

### 文化講演のご案内

佐野清廣 (3回)

星和会は、村上高校(旧村中・併中含む)卒業生を中心に、満六〇才を超えた有志の集まりです。現在会員約四〇名。年一回十一月に文化講演、総会、午餐会を開催しております。



昨年の文化講演は、齋藤奎二氏(三回生)を講師に迎え、「一人のエンジニアの回顧録」の演題で、約一時間お話を聞きしました。今年の文化講演は、十一月二一日(土)に市ヶ谷の偕行社で開催されます。講師は、星和会名誉代表の富樫利男氏を予定し、「わが国のエネルギー問題」の演題で、お話を伺います。期日近くになりましたら、関東支部HPでご案内いたします。是非ご参加ください。

■ 村高関東支部役員一覧 ■

令和元年度

役職	氏名	卒業回
顧問	佐藤 勝	14-2
会長	山本 宏平	17-2
副会長	安富 成良	19-6
副会長	美濃 忠三	22-4
副会長	八藤 後行	2-7
副会長	高橋 初雄	24-4
副会長	大塚 寿子	29-4
副会長	小林 敦子	30-1
副会長	山本 進平	30-2
副会長	櫻井 繁雄	23-6
副会長	高橋 光頭	23-7
副会長	木村 春夫	23-5
副会長	丹田 安夫	30-6
副会長	松澤 正	15-1
副会長	田所 和子	17-6
副会長	山下 治郎	19-10
副会長	瀬下 二郎	21-7
副会長	遠藤 美子	21-9
副会長	中村 修平	21-11
副会長	鈴木 弥生	22-2
副会長	山本 利春	24-7
副会長	佐藤 隆	26-4
副会長	石栗 志彦	27-4
副会長	水島 大海	28-1
副会長	中村 英之	29-6
副会長	山本 和代	29-5
副会長	南 恵美子	31-1
副会長	工藤 尚廣	31-3
副会長	坂井 昌夫	31-3
副会長	近 亮	31-7
副会長	森山 敦子	32-2
副会長	大滝 秀則	32-5
副会長	山本 大輔	33-2
副会長	木村 一昭	1
副会長	荒木 廣	6-4
副会長	齋藤 實	7-4
副会長	中野 菊栄	8-4
副会長	鈴木 亮	9-5
副会長	本野 勝安	9-5
副会長	小野 安雄	10-1
副会長	長谷川 康夫	10-5
副会長	本間 健志	定11夜
副会長	板垣 成也	13-3
副会長	伊藤 衛	13-5
副会長	菅井 眞人	13-5
副会長	尾崎 茂	15-1
副会長	小田 洋雄	15-7
副会長	本間 保	17-3
副会長	宮 絢子	17-7
副会長	緒方 光彦	18-5
副会長	中村 和憲	18-10
副会長	中村 壽子	18-10
副会長	菅井 初雄	19-1
副会長	長坂 三重子	19-1
副会長	志田 裕	20-11
副会長	佐藤 賢吉	22-9
副会長	永井 章	26-7
副会長	相馬 章	30-3
副会長	伊藤 ヨシ	30-4
副会長	前田 孝	36-6
副会長	川上 孝	2
副会長	小田 正二	3
副会長	中野 素子	6-1
副会長	乾 良雄	6-4
副会長	小池 悟朗	8-6
副会長	関根 洋子	9-2
副会長	横山 昇	12-2
副会長	佐藤 三男	16-6
副会長	川村 稔	16-4
副会長	佐藤 衛	16-4
副会長	高橋 繁夫	18-11
副会長	高橋 芳行	18-9
副会長	秋山 芳一	21-5
副会長	山崎 久男	21-8
副会長	小林 ミチ	10-3

令和元年度 維持会費拠出者一覧

10-1	小野安雄	16-6	藤山洋一	20-10	本間 廣	25-1	富樫三子夫
10-3	岸野 洋	16-6	和田洋美	20-11	佐藤方直	25-2	中田勢津子
10-3	小林ミチ	17-1	倉崎テル子	20-11	志田 裕	25-4	森井真由美
10-5	鈴木富夫	17-2	伊与部健	20-11	鈴木陽二	25-5	須貝与志明
10-5	長谷川康夫	17-2	金谷法子	20-11	高崎慶一	25-7	近藤喜則
10-6	立花俊道	17-2	森田千代子	20-12	羽深大三	25-7	相馬文幸
11-2	細井ミツ子	17-2	山本宏平	21-1	伊藤マユ子	26-7	松澤 豊
11-2	本間健志	17-3	太田直也	21-1	久保喜代子	27-3	高橋百合子
11-2	古川 宏	17-3	鈴木沙代	21-1	飛田芳子	27-4	石栗忠彦
11-2	町田 信	17-3	本間 保	21-3	船山由喜男	27-4	山村重雄
11-3	片野晴彦	17-4	石川 睦	21-4	飯島 剛	27-5	臼井潔人
11-3	松田純司	17-4	当摩 建	21-4	小磯栄子	27-6	久保田圭子
12-1	小林正子	17-5	斎藤千恵子	21-6	清水正幸	27-7	八幡浩道
12-2	山脇 昂	17-5	富樫芳次	21-6	鈴木正信	27-7	稲葉 潔
12-2	横山 昇	17-5	宮本久美子	21-7	瀬下江二	28-5	櫻井繁子
12-2	渡邊慶子	17-6	楯取英子	21-7	本保悦也	29-1	太田樹裕
12-3	山宮イツ	17-6	小池正一郎	21-7	吉田恵美子	29-4	大塚寿子
12-4	伊藤正勝	17-6	佐藤笑子	21-8	薄井 徹	29-4	太田幸子
12-4	野口春樹	17-6	品沢美代子	21-8	難波光子	29-6	中村英之
12-6	月居洋子	17-6	田所和子	21-8	萩原美津枝	29-7	川崎芳邦
12-6	服部智恵子	17-6	若槻田勇	21-8	山際敏和	30-1	小林敦子
13-2	高橋 翼	17-7	稻垣常夫	21-8	山崎久男	30-2	山本進平
13-2	渡辺輝男	17-7	川島也子	21-9	遠藤美子	30-3	相馬 章
13-3	板垣成也	17-7	宮 絢子	21-9	恩田たみ子	30-3	金子元子
13-4	渡部和子	17-8	服部芳朗	21-9	川上幸男	30-3	廣本さとみ
13-5	伊藤 衛	17-8	三科禮三	21-10	寺井克為	30-4	成田 誠
13-5	佐藤建夫	17-8	南 公隆	21-11	中村修平	30-4	中山定次
14-1	松永純子	18-5	緒方光彦	22-1	小池博幸	30-5	山本 徹
14-2	伊藤 勝	18-6	佐藤則子	22-2	鈴木弥生	30-6	清野 篤
14-2	細野 勲	18-7	金田昭子	22-4	荻野知子	30-6	丹田安夫
14-3	黒岩紘子	18-8	平山 謙	22-4	美濃忠三	30-6	中村 好
14-3	丹田兵次	18-10	濱中壽子	22-5	神浦英子	30-7	斎藤 司
14-4	村山孝夫	18-11	高橋繁夫	22-6	岡原ゆい子	31-1	南 恵美子
14-7	瓜生 扇	19-1	河口富美子	22-6	湯川美和子	31-1	横山素子
14-7	土肥直子	19-1	坂中良子	22-7	田村立子	31-1	鈴木 修
15-1	伊藤満紀子	19-1	菅井初雄	22-7	室井こずえ	31-1	佐藤順子
15-1	尾崎 茂	19-1	長坂三重子	22-7	八藤後行	31-3	坂井昌夫
15-1	片野親義	19-1	村山みち子	22-7	山本 敦	31-3	工藤尚廣
15-1	笹本フミ子	19-2	磯部 衛	22-8	小島盛和	31-5	白井かなえ
15-1	佐藤 武	19-2	木村 香	22-9	佐藤裕治	31-7	近 亮
15-1	永井文男	19-6	安富成良	23-2	細谷洋子	32-2	森山敦子
15-1	松澤 正	19-8	井上ミヤコ	23-3	佐伯ユミ	32-5	大滝秀則
15-4	鈴木康夫	19-8	鈴木 実	23-5	木村春夫	32-6	角田和浩
15-4	鈴替キヨ	19-8	斎藤千恵子	23-6	井上えみ子	32-6	佐藤信邦
15-4	明前壽一	19-9	秋山芳行	23-6	小堀美喜子	33-2	山本大輔
15-5	荒井子ヨ	19-9	大貫サキ子	23-6	櫻井繁雄	33-5	金澤清美
15-5	寺井賢二	19-9	佐藤昭二	23-6	富樫博志	35-4	唐戸悦子
15-5	田村久七	19-9	菅井小夜子	23-6	村田裕子	36-6	中島 博
15-6	鈴木益良雄	19-9	中村富美子	23-7	高橋光頭	36-6	福永利枝子
15-6	本保銀二	19-10	茂原孝太郎	23-7	小森裕貴子	37-2	石川るみ子
15-7	小田毘古	19-10	山下治郎	23-8	加藤 明	38-2	加藤博徳
15-7	小田洋雄	19-10	山本文志	23-8	須貝研司	39-5	山本一郎
15-7	田中敏博	19-11	奥村良作	24-1	広沢なお子	40-5	和泉聡子
15-7	宮野美保子	19-11	鳥屋 実	24-2	入江敏子	43-3	榎田睦子
16-1	富樫春夫	20-1	菅原 孝	24-2	七海陽子		
16-2	松田七郎	20-5	加藤正己	24-4	高橋重実		
16-3	鈴木 愈	20-5	木村幸夫	24-4	高橋初雄		
16-3	二宮照子	20-5	平山恵美	24-4	土屋康子		
16-3	菅井章人	20-6	佐藤陽三	24-4	松島裕子		
16-4	川村 稔	20-6	佐藤久美子	24-4	村山博子		
16-4	川村忠久	20-6	高橋国栄	24-4	吉澤まり子		
16-4	佐藤 衛	20-7	渡辺泰次	24-5	仙むつみ		
16-5	菊地司郎	20-8	菅原ヒロ子	24-5	山本青子		
16-5	佐藤 純	20-8	富野竹子	24-6	阿部正人		
16-5	中山國男	20-9	中村加和子	24-6	渡邊 聡		
16-6	大坪信武	20-10	尾上啓子	24-7	板垣保明		
16-6	小池 登	20-10	齋藤満男	24-7	遠山 満		
16-6	佐藤三男	20-10	新沼たず子	24-7	山本利春		

ご協力者数は 326名

維持会費納入のご協力ありがとうございました



**信州高山産「りんご」 「ぶどう」 産地直送**

今年も美味しい**ぶどう・りんご**を沢山味わって下さい。一番美味しい時期に発送します。

ぶどう:シャインマスカット・ナガノパープル・種なし巨峰  
3種詰合せ 3kg 4,500円(送料900円)  
発送時期 9月15日～10月5日

りんご:サンふじ 家庭用10kg(28～36玉) 3,000円  
贈答用10kg(24～32玉) 5,000円

(送料各1,000円) 発送時期 11月15日～12月10日

※ご注文は**FAX**でお願いします

**宮川農園 (村高:全15回生)**

FAX 026-246-9666 携帯 090-1554-2707



**SAKATAYA**  
**1793**

東京都世田谷区豪徳寺1-43-7

小田急線豪徳寺駅徒歩1分

世田谷線山下駅徒歩1分

31回生 工藤尚廣が出版社を始めました!

株式会社 **ユニコ舎**

<http://unico.press/>



大林宣彦監督メッセージ集  
**『キネマの玉手箱』**

1,500円+税

好評発売中!

送料は当社負担で  
直接販売いたします。

TEL.03-6670-7340

※上記URLからもお申し込みいただけます。

ISBN978-4-9911368-0-1

**広告募集**

村上高校同窓会関東支部広報誌  
「村高」への広告を募集します

- ・毎年1回関東支部の同窓会員約2,300人に郵送しています。
- ・掲載は本同窓会に関係のある団体企業に限定させていただきます。
- ・詳しくは会長・事務局編集部にお問い合わせください。

<事務局>

櫻井繁雄 ☎044(933)1033

ふるさとだより

**輝きに満ちた笑顔のまち 村上**



村上市 市長 高橋 邦芳 (30回)



本年、村上高等学校が創立120周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。これまで数多くの素晴らしい人材を輩出してこられた功績に敬意を表するとともに、新たな時代を担う人材の育成において同窓会の役割も非常に重要であると考えております。更に力強い歩みを重ねられますことをご祈念申し上げます。

昨年5月1日に天皇陛下が御即位し、輝かしい「令和」の時代が幕を開けました。本市ゆかりの雅子様が皇后陛下におなりになられ、天皇陛下御即位慶祝事業として、平成5年の雅子様御成婚、平成13年の愛子内親王殿下御誕生の時と同様に、おしぎりの巡行を行いました。また、村上市役所本庁舎並びに各支所においては、お祝いのご記帳所を設けたほか、ちょうちん行列や慶祝漁船パレードなどが行われ、市民の皆様とともにお祝いを申し上げることができました。

翌月の6月18日には山形県沖を震源とする地震に見舞われ、山北地区を中心に震度6強という大きな揺れを観測し、一般住宅や公共施設などに甚大な被害をもたらしました。皆様からたくさんのご支援や心温まる励ましのお言葉、そして勇気をいただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。



お城山からの眺望



岩船産コシヒカリ

さて、本市が誇るブランド米「岩船産コシヒカリ」が今年2月に発表されました「2019年産米の食味ランキング」において、最上級である「特A」の評価を受けました。3年ぶりとなる「特A」の評価は本市にとりましても大変喜ばしいニュースでありました。

本市の「ふるさと納税」のお礼品にも岩船産コシヒカリを用意しています。他にも、昨年の大嘗祭に供納された「塩引鮭」や新潟の誇る「村上牛」など自慢の逸品を取り揃えておりますので、ぜひ、村上の応援団として特産品もご堪能いただければと思います。

また、オープンから1年を迎えた「村上市スケートパーク」は、2月末までの施設利用者数が2万人を超え、各種大会やイベントが開催されているほか、東京2020オリンピックを目指す各国のナショナルチームが合宿で利用するなど、多くの方々からご利用いただいております。



韓国代表との交流

現在、村上市では「やさしさと 輝きに満ちた 笑顔のまち村上」の実現を目指し、第2次村上市総合計画を推し進めています。しかしながら、急激な人口減少や少子高齢社会は、学生の減少や担い手不足などを生じさせ、地方の行政運営に大きな脅威となっています。この脅威に立ち向かい、夢や希望を持って暮らすことのできる魅力あるまちを目指し、定住人口の増加や市の活性化を目指してまいりますので、同窓会関東支部の皆様からは、大いなるお力添えをお願いいたします。

**編集後記**



今回は、不要不急の外出を自粛する中で書いています。

誰もが想像していなかった未曾有の事態の中で、同窓の皆様は堅忍不拔の精神で努力なさっていることと思います。

一日も早く元の日常生活に戻れることを祈っています。お忙しい中ご寄稿をいただいた皆様へ感謝いたします。